

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん(1号店)		
所在地	羽島市上中町中708-1		
自己評価作成日	平成28年8月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2170400515-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたのんびりした場所にあり、車の往来もほとんどなく利用者は落ち着いて生活が出来る環境である。施設では毎日の日課を決めており規則正しい生活が出来るように支援している。利用者本人の希望の場所に出かけたり、やりたい事が出来るようにしている。季節ごとの行事にも力を入れており、節分、ひな祭り、七夕等を行う事で、季節の移り変わりを肌で感じられるように工夫している。スタッフは皆介護の仕事に誇りを持っていて利用者本人の立場になり本人本位の支援を行っている。グループホームで生活していても、自分の家と同じように暮らしていけるように、居室・ホールの掃除を手伝っていただいたり、縫い物や梅干しを漬ける、干し柿を作るなどと生活感の溢れる暮らしを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「今日はいいい日 あしたはもっといい日 あさって もっともいい日」という開設者の思いを理念に掲げ、日々、職員は利用者へ寄り添ってケアをしている。利用者だけでなく、家族の心理や状況に合わせ、ホームと家族が歩み寄りながら、相互に利用者と共に支えており、家族の訪問も多くなってきている。利用者は食事が済むと、仲良く同士で椅子に座り、談笑しながらくつろいでいる。職員は、常に、利用者一人ひとりを温かく見守りながら、ホームでゆったりと暮らしてもらえよう努め、医療面では、訪問看護による万全の体制をとっており、離れて暮らす家族の安心感に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1号店)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングの際、会社理念、スタッフ駆動規範を読み上げ常に意識できるように心掛け実践につなげている	法人の理念に加え、スタッフ同士で、ホーム規範を日々の申し送りや職員会議で確認し合っている。利用者の笑顔を職員の喜びとし、今日がよい日になるようケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者のなじみの店に買い物に行き、地域の方と交流が出来るようにしている。近くの円空記念館では毎月18日に朝市が開かれるので、そこに出向くことで地域の方々との交流がある	毎月開催される地元の朝市に行き、地域の一員として住民と言葉を交わしている。小学生が、夏休みの自由研究でホームを訪問したり、中学生が福祉体験に訪れ、利用者と一緒に作品作りやゲームを行うなど、子供達と自然な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護感動事例発表会」は毎年恒例となり、地域のかた、若い方にも認知症への理解や介護の仕事の素晴らしさを知って頂く場になっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回定期的に運営推進会議を開催し、施設での催し物、事例、社内研修の内容を報告している。看取りのケアの報告をさせて頂いた時は参加されている地域の方、民生委員の方などが強い関心を示され、GHとしてのターミナルケアの大切さを実感した	運営推進会議は、2か月に1度、民生委員、老人会、地域包括支援センター等が参加し、開催している。ホームの行事や看取りの実例報告等を行っている。参加者から、地域で独居暮らしをしている高齢者情報などがあり、解決に向けて意見交換をしている。	家族会が開催されているが、運営推進会議にも家族参加を期待したい。会議がさらに内容深いものとなるよう、地元住民、警察・消防団員・ボランティア組織の参加など、様々なメンバーの構成に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの主催の研修に参加し、運営推進会議の場で意見交換をする等して、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは、研修情報や地域連絡会議の連絡などを通し、良好な関係性を保っており、看取り実例や利用者の状態などの報告を行っている。介護相談員も毎月訪れ、利用者から拾い上げた内容から、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員にはヘルパー会議の場での、勉強会を通して身体拘束について、正しく理解できるように指導している。玄関の施錠なども拘束にあたる事を説明し帰宅願望のある方が外に出た時などはスタッフが付き添うなどして利用者が自由に行動できるように支援している	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、職員間で確認し合い、見守りながら、ケアに努めている。ホームから外へ出ていきたい人には、さりげなく付き添い、散歩して落ち着けるよう工夫している。言葉による拘束についても研修で正しく理解し、行動の制限をしていないか、職員間で常に確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待について学び、事例を通してどのように支援したらよいかを皆で話し合い、理解をすることで4虐待のない支援に努めている		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解できている、現在成人後見人制度の利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明をさせて頂き、分からない事には何でも答えられるようにし、ご家族、利用者様に納得してもらってから契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見は来所された時や、家族会、担当者会議の場で聞かせて頂き運営に反映させている	家族の訪問は何時でも可能であることを伝え、家族は気軽に訪問している。歩行訓練の要望や、居室の室温についての意見があり、職員間で話し合い、その日から取り入れ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回リーダー会議が設けられており、各ユニットのリーダーは事業所の取り組みや、良かったこと反省点など発表しお互いに意見交換をしている。各施設の職員の希望や問題などその場で話し合う機会がある	毎月のリーダー会議とユニット会議では、ユニット毎の取り組みや内容を伝えあっている。希望の勤務時間やホーム運営に関する提案などを話し合い、職員の気づきや意見を取り入れたケアを行えるよう検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者やリーダーが意見を言いやすい環境を心掛けており、また管理者やリーダーは職員が楽しく生き生きと働ける環境作りに取り組んでいる。職員の得意分野を活かした取り組みとしてクラブ活動を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度社内研修が行われており、企画、講師進行など全て各ユニットの職員が計画実行している、また年間の研修計画が配られ職員は自分が希望する研修に参加することができる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通して、他事業所との交流の機会がある。「介護感動事例発表委員会」の場では他事業所と協力して発表会に向け取り組むことでサービスの質の向上を目指すことができる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、日常の会話の中から本人の要望困っている事を把握し、改善に努める事で信頼関係を築けるようにつとめている。また会話だけでなく表情、生活の変化などにも注意を傾けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は今までの介護で不安を抱えており、施設に預ける事にも、不安と後ろめたさを感じているため入所時には特に家族との連絡を密にして関係づくりにつとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほんにん・家族・職員との面談の場を設け、サービスに対する要望を伺い、そこから必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を共に生活するものとして考え、本人の意思を尊重し不自由な部分を支援するという考えの元接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人が家族にとってかけがえのない存在である事を理解して。また家族にしか出来ない事がある事も知っており、家族との協力の元、本人を支える関係が出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの店へ買い物に行き、なじみの人との会話を楽しむ機会を設けている。また同じ地域の方で法人内の他のユニットに入所されている方の元を訪ねたりと関係を断ち切らないようにしている	職員と共に地元の喫茶店に行き、経営者や常連さんと昔話をしたり、散歩中に住民から話しかけられ、野菜を貰ったりすることもあり、地域と自然な関わりができています。利用者が希望する懐かしい場への外出や、墓参りや慣れ親しんだ風景を見に出かけるなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人一人の性格や認知の程度を理解しており、利用者同士の人間関係についても把握している。外出やレクリエーションを通してお互いの関係が良くなるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設ではサービス利用の終了はほとんど本人が死亡したことによるものであるが、家族との関係は本人亡き後もつづいている場合もあり、施設に尋ねて他利用者の話し相手になったり、畑で出来た野菜など届けて下さったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話から、利用者の考えや思いを把握している。意思疎通が困難な利用者には毎日のケアの中での気づきを大切にしている	職員は、日々の生活の中で、手芸や習字の得意な人、ホーム内の観葉植物の水やり、畑の苗植えの指導ができる人などを把握し、利用者一人ひとりの個性を活かしながら、生き生きと暮らせるよう支援している。また、地域の社会資源の場所に、利用者の作品を展示させてもらう計画を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から、また以前に他の介護サービスを領していた方にはその事業所からも生活歴やなじみの暮らし方を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い利用者の一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、既存のケアの見直しや家族、関係者からの情報の収集やアイデアを頂き、介護計画に反映している。また、モニタリングでは職員の意見も参考にし偏りのない現状把握につとめている	3か月に1度、担当者を中心に、主治医や訪問看護師、薬剤師、家族も参加し、サービス担当者会議を行っている。緊急時や、利用者の身体機能が下がった際には、家族の意見や意向を聴き、柔軟に見直しを行っている。	利用者本位の生活を支援する介護計画は、毎月の職員会議で話し合っているが、より良い介護計画になるよう、その内容を反映させた記録等を残されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護支援経過に日々の様子やケアの実践状況、気づき、工夫を記録すると共に会議や申し送りの場で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方出身の利用者に対してご家族と何度も話し合いを重ね、帰省されたケースもあり、その方一人一人のニーズに柔軟な対応が出来るように努めています		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のアセスメントをしっかり行う事で、地域資源の把握に努めると共に運営推進会議での地域の方からの情報収集に努め地域のかたといつまでも関わり、繋がりを持って生活できるように支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設では本人、ご家族が望むかかりつけ医を自由に選んで頂いています。そのため入所前からの状況を医師が把握しており、施設ともスムーズな情報共有や連携が取れています	利用者全員が、以前からのかかりつけ医に家族と受診しているが、家族の都合によっては、職員が同行することもある。受診結果は、ホームが個別ファイルに記録し、情報を共有している。歯科医の訪問診療も行われ、適切な健康管理と連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚トラブルや熱発以外にも利用者の日常の小さな変化や気づきを施設看護師、訪問看護師に伝え適切な治療を速やかに行えるように努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会を細やかにし、担当看護師と面談し病状把握に努めています。また退院時のカンファレンスにも積極的に参加し退院後の利用者の変化にも対応できるように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時や担当者会議開催時に利用者の変化について報告させて頂く中で、当施設では看取りも行っている旨をお伝えしています。その方やご家族の望む終末期となるように支援させて頂いています。	契約時に、重度化と終末期に関する説明を行っている。本人の状態の変化に伴って、主治医と関係者、家族を交えて話し合いながら、終末期のケアに取り組んでいる。また、看取りを希望された場合、利用者と家族に寄り添い、見守り、尊厳ある看取り介護となるよう努め、職員もその貴重な体験を活かし、より良い支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が主導となり応急手当や、高齢者がかかりやすい感染症、初期対応についても社内研修を定期的に行い、いざと言うときに備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や地震を想定した避難訓練を行っています。その際民生委員や、近隣の鉄工所の方に協力をお願いしています	前回の改善項目である「備蓄」については、レトルト食品と飲料水が完備され、改善されている。年に2回の消火訓練と利用者の敷地内誘導や通報訓練を通し、災害に備えた取り組みを行っている。	災害時には、家族に、避難場所と職員が駆けつけられる時間等を知らせておく必要があると思われる。運営推進会議を通し、地域住民に協力を呼びかけ、利用者が安全に避難ができるよう、地域との連携体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは特に気を付けており、利用者の尊厳を守るように心掛けている。「ダメ」「違う」などの否定的な言葉は使わないように常に気を付けている。またトイレでの排泄の際や、失禁などの時の言葉使いには特に注意している	職員は、毎朝、利用者と握手を交わして挨拶し、笑顔が増えるよう温かい対応を心がけている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、排泄時などのトイレ誘導をさり気なく行っている。また、個々の心理面にも配慮し、行動を抑制する言葉かけをしないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話す機会を多く設け、話しやすい関係を作ることで希望を言いやすい環境作りをしている。自己決定が難しい場合には選択制にするなど、自己決定しやすいように工夫している。また常に自己決定する場を設け自分の思いを伝える練習をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、利用者の思いに添った支援が出来るように心掛けている。また一人一人にあったペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットは職員がさせて頂いており、その方の意見を聞きながらカットしている。また洗顔後化粧水をつけたり、眉毛を整えたい利用者は自分の思い通りにできている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを伺い、食材のカットやササガキ等一緒に行っている、季節のメニューや祭りごと、催し物の時は特別メニューにしたり、皆でおはぎ作り、巻きずしづくり等昔を思いだせるようなメニューづくりにも取り組んでいる	日々の会話の中で、利用者が食べたいものを聞き取り、季節感を取り入れた食事を手作りしている。利用者が作ったぎょうざを、職員も同じテーブルで、楽しく会話しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は毎日記録している。お茶があまり得意でない方にはスポーツ飲料など美味しく水分摂取できるようにしている。また嚥下の状態に合わせて4トロミ剤なども使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を受け、職員が皆同じレベルで口腔ケアが正しく出来るようにしている。歯科医との連携も取れており分からない事を質問しケアの向上に努めている		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を決め、声掛けをしてトイレでの排泄が出来るように支援している。また全介助で排泄の訴えのない方にもトイレに座って頂くことでトイレでの排泄が出来る	職員のきめ細やかな声かけと、トイレ誘導により、排泄の自立が向上した利用者が増え、排泄用品の費用削減と共に、本人の自信にもつながっている。夜間は、安全面を考慮し、利用者の状態に合わせて、ポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとる事や、食物繊維の多い食材を使った料理を食べて頂くことで日常的に便秘にならないように気を付けている。また便秘に効く体操も行っている。排便コントロールを心掛け、便秘日数によって排便薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人がどうしても入りたくないときには、無理強いしないようにしている。入浴はスタッフと利用者が一対一でじっくりと話を出来る環境でありお互いの信頼関係を築くチャンスであるので楽しい入浴タイムになるようにしている	入浴は1日おきに行っており、入浴剤なども各種取り揃え、利用者はその香りを楽しみながら入浴している。入浴時には、好きな歌を歌ったり、昔話や旅行の話などをしながら、リラックスして入浴ができるよう、個々に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方も多くみえ、顔色、表情は常に気を配っており、状況に応じて休息できるようにしている。利用者が安心して気持ちよく眠れるように、就寝前にはお経を読むなどして心のケアも行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬情報が記されており職員はそれを見る事で目的・副作用などを知ることが出来る緊急マニュアルを作成しており、利用者全員の既往歴、服薬、薬の働きが一目でわかるようになっている。緊急時にも対応できるようにしてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リーダーシップのある利用者には食事前の挨拶をしていただく、手先の器用な方には雑巾づくりや工作を、花の好きな方には花の水やり等その方の強みを生かした支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「どこかに行きたいね」などの利用者の希望には極力答えるようにしている。また個別の外出日を設け職員と2人で利用者の行きたい場所(喫茶店・買い物・ドライブなど)に行く支援をしている。法事や食事会など家族の希望にも添えるようにしている	利用者の趣味に合わせて、花屋や民俗資料館の見学など、個別に出かけたり、利用者全員でひまわり見学や木曾三川公園、近隣の足湯などに出かけている。日々の散歩は、天候や利用者の体調に合わせて行い、ベランダや広い敷地内でも、外気浴を兼ねたお茶タイムなど、柔軟に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人にとって気になる事の一つで年金や通帳の心配は良くされている。職員はその都度傾聴し本人が安心できるように声をかけている。買い物は本人に鞆を持って頂き、支払いの際は本人が出来るように声掛け支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけて下さい」と言う要望には応じるようにしているが、時間的に難しいとき(深夜・早朝)などは本人が納得できるように声掛けをしている。 手紙のやり取りは出来ていない。年賀状は出来る方には書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔感があるように心掛けています。机や棚の上などには物を置かないように整理整頓に気を付けています。ホールは広く使えるように気を付け、玄関やホールの壁には利用者が作った、季節感のある作品を展示している	リビングの横にあるキッチンでは、食事の準備を手伝う利用者の姿があり、昼食後には、テレビの前で仲良し同士で談笑している様子は、ご近所付き合いのような温かさが感じられる。季節に合わせた作品が廊下やリビングに掲示され、生活感のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はほとんどの時間をホールで過ごしているソファは置かず、立ち上がりが無理なくできるように肘掛付の椅子に座って頂いている。それにより人の手を借りず自由に立ち上がり行きたい所に行く事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が使っていたタンスやテーブル、時計などがあり、使い慣れたものに囲まれ生活できるようになっている	居室には、馴染みの家具やタンスを持ち込み、本人が使いやすいように配置し、家族の写真や利用者の作品を飾っている。日々、本人と職員と一緒に掃除と片づけを行い、安全のため、床に物を置かないよう整理整頓しながら、安心して暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には本人の顔写真・扉の上の壁には本人の名前が貼ってあり、自分の部屋だと認識できるようにしてある。またトイレ・風呂場も分かるように壁に表示してあり迷わずに行けるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん(2号店)		
所在地	岐阜県羽島市上中町中705番地—3		
自己評価作成日	平成28年8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2号店)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範が書かれているクレドをスタッフほぼ全員が持っています。朝礼時に読む事によって理念と規範を大切にしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の夏祭りにも協賛で参加しています。近くの「山栄商店」などにも行き地域の方との交流もしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年一回、羽島市の他事業所と協力し「感動事例発表会」を開催しています。地域の方々に、介護という仕事や、認知症についての知識を広げようと努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事例発表、行事報告などを行っています。2号店で、開催していて利用者様にも参加してもらっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、高齢福祉課の方と交流したり、月に一回介護相談員にきてもらい利用者様の相談やケアをお願いしています。月2～3回外部からのボランティアをお招きしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをするために職員には研修を通して、身体拘束について具体的な行為を理解してもらえるようにしている。帰宅願望のある方も見えますが、スタッフが見守りをしっかりする事で日中は、玄関に施錠しないようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議や社内研修で、勉強会として取り上げて、身体だけでなく、言葉や、態度での虐待もあることを知ってもらい防止に努めています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解できている。現在、成年後見人制度の対象者は見えません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分話し合いをさせて頂き、利用者ご家族に、理解、納得をして頂いてから契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族様の参加や、来所された時にご意見やご希望を聞かせて頂くようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回各ユニットのリーダーが集まり、事業計画の検討や、意見交換をしています。その際、代表者の意向を聞き、各ユニットに持ち帰り、サービスに反映できるように努力しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが、意見の言いやすい環境を心がけています。また、リーダーはスタッフ個々の個性を最大限に生かせる職場環境作りを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人スタッフの為に、リーダーや経験豊かなスタッフが講師となり、研修をしています。また、法人外での研修も多く取り入れ、スタッフのスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通して、他事業所との交流の機会があります。「感動事例発表会」の委員会が発足され毎月のように各事業所の代表者が話し合う機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のお話を傾聴し、困っている事、抱えている不安や問題を明確にし、サービスに活かしていくことで利用者との信頼関係を築くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様は、今までの介護を通じて、困った事や不安を抱えています。また、施設に預ける事にも不安も感じている為、安心して任せて頂けるように入所初期は特にこまめに連絡を取り、要望や、気付いた事を聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様・スタッフとの面談の場を設け、サービスに対する要望等を伺い、そこから支援をスタートさせています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であり、学ぶ事も多く、常にいろいろな事を教えて頂きながら、不自由の部分を支援させて頂きます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が、家族様にとってかけがえのない存在であり、家族様にしか出来ない事がある事を理解しています。家族様の協力を得ながら共に利用者を支える関係が出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の店への買い物や、以前よく行っていた喫茶店へ行ったり、ドライブがてら利用者の地元に行き、地域の方との交流に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格を理解して、利用者同士の間人間関係についても把握しています。外出やレクリエーションを通してお互いの関係がより良くなるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他界された後でも、ご家族が以前の様に来訪され、畑の野菜を持ってきてくださったりしています。いつでも、相談や支援が出来るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や日々の生活の中で一人一人の思いや暮らし方の希望、意向をお聞きし、プランに明記しています。困難な場合は、生活歴や家族様からお聞きして把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や入所後もお話も重ね、生活歴や馴染の暮らし方等について入念なアセスメントをしています。家族様にもこれまでの暮らし方やサービス利用の経過などお話をよく聞かせて頂くことで、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務申し送り、申し送りノート、ケアプラン用紙を活用しスタッフが、情報共有できるようにしています。家族様にも報告しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、担当スタッフに記入して頂き、日常で、ケアプランをおこなった日は、記録に記入しています。また、問題点などを申し送り時に、話し合ったり医療関係者、ご家族様に意見をお聞きしケアプランに反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日3回の申し送りと、ケアプランの実践を個別に介護支援経過に記入し、プランに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフは、利用者様の行きたいところ、したい事に耳を傾けて願いを叶えられる様に取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	円空朝市、円空祭り、地域の祭り、足マッサージ、他事業所での行事など、いろいろな行事に参加して利用者様が楽しむことができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医に、スタッフが同行したり、また、ご家族様の報告の元、医師、ご家族様、事業所との連携を大切にしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日々の生活で異変があった時は、看護師、主治医に相談し、適切に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、利用者様アセスメント、状況報告をおこない病院関係者との情報交換をしています。入院中は、たびたびお見舞いに行き、医療関係者と情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から、ご家族様と話し合いをしています。事務所で、出来る事、出来ない事を理解して頂けるように十分に努力しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成してあります。いざその場での応急手当、初期対応は行っていないので、取り組んでいく必要があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練をしています。昼間、夜間の交互に訓練をしています。夜間や昼間でも地域の方にも協力して頂ける環境づくりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け、言葉遣いに気を付けています。スタッフ一人一人が、注意しています。利用者様の人格を尊重しています。ヘルパー会議などでも言葉使いについて取り上げています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝礼や、レクリエーションの場で、希望の言いやすい環境にしています。また、希望の言えない方はこちらから提案し選んでいただける環境を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にお話を聞いたり、スタッフとのコミュニケーションの中でしたい事を聞き、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設では、本人の要望を聞きながら服を選んでいただいたり、スタッフが髪の毛を染めさせて頂いたり髪の毛カットもさせて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事では、スタッフと一緒にメニューを考えお手伝いをして頂いたりしています。おやつでも、手伝って頂いています。食後には、食器拭きをお手伝いして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に水分・食事の摂取量を記入しスタッフが、確認しやすいようにしています。食べる量、水分量が少ない時は、本人の好きな物などを摂取しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、できる方には声掛けをしています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を決めて、排泄時間を把握して排泄の失敗を減らすように努力しています。自立している方は、声掛けをさせて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に、乳製品を摂取してもらったり、食物繊維の多い食事を摂って頂いています。排泄時には、腹部マッサージをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっています。利用者様が、「入浴したい」とお話をされた時は、いつでも入って頂ける環境にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様にお聞きしたりして、快適に過ごしていただける環境づくりをしています。体温調節の難しい方は、湿度・気温計・手を握ったりし、調節をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月薬が処方されるとスタッフが、確認して管理しています。お薬を飲まれる時は、スタッフが手渡し確認をして、服用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の朝礼、食事配膳・お手伝い、洗濯物のお手伝い、畑の草むしり・耕す、など個々が活躍できる場を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の行きたい所へ、なるべく行けるように、努力しています。行きたい所に行く時は、スタッフと利用者様で行くようにしています。ご自宅などに帰られる時は、家族様にお電話し帰宅しています。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布は、スタッフが管理しています。利用者様が欲しい物がある時は、スタッフが同行し購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は、スタッフが電話をかけお話をしてもらっています。手紙が届いたときは、利用者様にお渡しし、スタッフも一緒に拝見しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは、毎日清掃し清潔感のある空間を目指しています。利用者様と一緒に個室も掃除しています。季節感のある明るい環境にするために掲示物の作成、写真掲示にも取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際の畳椅子があったり、テレビの前にソファがあったり、個々が自由に過ごせる環境を大事にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真、馴染の物、塗り絵、貼り絵、などの利用者様の作品、大切な物を中心に置いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは、利用者様と関わることで、出来る事、出来ない事を把握しスタッフ同士、情報交換し良いケアを提供できるように努力しています。		